

第2次おい町未来創生戦略 事業評価シート

整理番号	2-①	課名	農林水産課
------	-----	----	-------

戦略分類	2. 若者仕事		
取組の方向	本町ならではの農林水産業の支援と活性化		
戦略事業名	①一次産業スタート支援事業		
予算事業名	一次産業スタート支援事業		
令和4年度実績額	4,034,449円	令和5年度予算額(6月補正後)	5,029,000円

事業の概要 (実績)	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	<p>【就農総合支援事業補助】 町内で一次産業に新規就業された方を対象に、家賃及び研修に係る費用の補助を行う。</p> <p>新規就農者住宅確保支援事業補助金 (1人) 270,000円 新規就農者研修支援事業補助金 (1人) 480,000円</p>	<p>【就農総合支援事業補助】 町内で一次産業に新規就業された方を対象に、家賃及び研修に係る費用の補助を行う。</p> <p>新規就農者住宅確保支援事業補助金 (1人) 67,500円 新規就農者研修支援事業補助金 (0人) 0円</p>	<p>【就農総合支援事業補助】 町内で一次産業に新規就業された方を対象に、家賃及び研修に係る費用の補助を行う。</p> <p>新規就農者住宅確保支援事業補助金 (0人) 0円 新規就農者研修支援事業補助金 (1人) 480,000円</p>
	令和5年度(予定)	令和6年度	
	<p>【就農総合支援事業補助】 町内で一次産業に新規就業された方を対象に、家賃及び研修に係る費用の補助を行う。</p> <p>新規就農者住宅確保支援事業補助金 (0.5人) 159,000円 新規就農者研修支援事業補助金 (1.5人) 720,000円</p>	/	
			

評価(Check)

成果を測る指標 (KPI・数値目標)	新規就業者数		⇒	現 状		KPI達成率 (%)
	基準値 (平成30年度)	累計3人		令和4年度末	累計8人	
	目標値 (令和6年度末)	累計10人				80%

① 数値目標達成状況		おおむね達成
達成状況の要因分析	新型コロナウイルス感染症の影響から、体験事業に関する問い合わせが減少したことに加え、大学生等を対象にした一次産業体験事業の効果的なPR活動を行うことができなかった。	
目標を見直す場合の考え方	—	

② 事業成果

町外から来た方が一次産業を体験できる仕組みを用意し、新規就業者の獲得を促進することで一定の評価はいただいていたが、新型コロナウイルス感染症の影響で問い合わせが減少したことに加え、町外でのPR活動ができなかった。

③ これまでの取組で得られたノウハウや昨年度までの事業評価を反映した今後の方針

ノウハウの内容、内部評価・外部評価の反映、目標達成に向けた今後の方針など

新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが5類感染症に移行したことから、受入農家と調整を図るとともに、大学等で体験事業のPRを再開し、一次産業体験者を受け入れることで新規就業者の獲得につなげる。

④ 内部評価結果(①～③を踏まえた評価)

- ・これまで行ってきた一次産業体験事業等の効果もあり、KPIは概ね達成している。
- ・新規就農者に対する家賃・研修費用補助制度の周知を行うとともに、大学等にPRを行って一次産業体験事業に多くの参加者を呼び込むことにより今後も新規就農者を獲得し、本町農業の活性化を図っていくことが重要

外部評価の結果

意見等なし

第2次おい町未来創生戦略 事業評価シート

整理番号	2-②	課名	農林水産課
------	-----	----	-------

戦略分類	2. 若者仕事		
取組の方向	本町ならではの農林水産業の支援と活性化		
戦略事業名	②「お～い★さかな君」発掘・育成事業		
予算事業名	「お～い★さかな君」発掘・育成支援事業		
令和4年度実績額	1,071,910円	令和5年度予算額(6月補正後)	1,918,000円

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
事業の概要(実績)	漁業従事者への支援、新規就漁者の募集 ①ふくい水産カレッジ入校者の費用負担 ②水産関係の地域おこし協力隊や移住募集 ③ふくい水産カレッジ受講者への支援(受講に係る交通費補助) (実績) ふくい水産カレッジ2名入校 ①受講費用負担(10月入校2人分) 750,000円 ②交通費補助(交付先:大島漁協)(2人分) 5,730円 地域おこし協力隊1名(H30年度から継続)	漁業従事者への支援、新規就漁者の募集 ①ふくい水産カレッジ入校者の費用負担 ②ふくい水産カレッジ受講者への支援(受講に係る交通費補助) ③新規就漁者への家賃補助 (実績) ふくい水産カレッジ令和3年度入校者なし(R2から継続2名) ①受講費用負担(R2年度繰り越し2人分) 750,000円 ②交通費補助(交付先:大島漁協)(2人分) 6,180円 ③就漁者住宅確保支援事業補助金(1人分)(交付先:大島漁協) 275,000円	漁業従事者への支援、新規就漁者の募集 ①ふくい水産カレッジ入校者の費用負担 ②ふくい水産カレッジ受講者への支援(受講に係る交通費補助) ③新規就漁者への家賃補助 (実績) ふくい水産カレッジ令和4年度入校者2名 ①受講費用負担(10月入校2人分) 750,000円 ②交通費補助(交付先:大島漁協)(2人分) 10,180円 ③就漁者住宅確保支援事業補助金(交付先:大島漁協)(1人分) 300,000円
	令和5年度(予定)	令和6年度	
	漁業従事者への支援、新規就漁者の募集 ①ふくい水産カレッジ入校者の費用負担(R4年度継続2人分、R5年度1人分) 1,500,000円 ②ふくい水産カレッジ受講者への支援(受講に係る交通費補助)(R4年度継続2人分、R5年度1人分) 42,120円 ③新規就漁者への家賃補助(1人分) 318,000円	/	



評価(Check)

成果を測る指標(KPI・数値目標)	新規就業者数		⇒	現 状		KPI達成率(%)
	基準値 (平成30年度)	累計3人		令和4年度末	累計10人	100.0%
	目標値 (令和6年度末)	累計10人				

① 数値目標達成状況					達成
達成状況の要因分析	大島漁協からの水産カレッジ入校希望者の情報に対して素早く対応できたこと。(令和4年10月入校者は令和5年10月卒業予定) 漁協および水産事業者の意見を聞き取りしながら、引き続き必要な人材確保に努めたい。				
目標を見直す場合の考え方	—				

② 事業成果

令和4年度に2名の入校者があったため、令和4年度末時点で令和6年度末までの目標値は達成することができた。

③ これまでの取組で得られたノウハウや昨年度までの事業評価を反映した今後の方針

ノウハウの内容、内部評価・外部評価の反映、目標達成に向けた今後の方針など

今年度は、就漁フェア等にも参加することができ、新規就漁者を獲得するための活動を行う事ができた。来年度以降も積極的に新規就漁者獲得のための活動を行いたい。
また、新規就漁者もはぐり漁などが可能な准組合員になるためには、3年間の漁業体験が必要となる。このことから、漁協および水産業者と意見を交わしながら、休業期間に対するなんらかの支援も必要と考えられる。

④ 内部評価結果(①～③を踏まえた評価)

漁協および水産事業者などとの連携により、KPIの目標値を達成した。今後も就漁フェアへの参加等により、さらに新規就漁者の獲得に努めていくことが重要

外部評価の結果

意見等なし

第2次おい町未来創生戦略 事業評価シート

整理番号	2-③	課名	商工観光課
------	-----	----	-------

戦略分類	2. 若者仕事
取組の方向	本町ならではの農林水産業の支援と活性化
戦略事業名	③特産品開発・販売促進支援事業
予算事業名	特産品開発・販売促進支援事業

令和4年度実績額	375,926円	令和5年度予算額(6月補正後)	2,236,000円
----------	----------	-----------------	------------

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
事業の概要(実績)	<p>地元産品を活用した特産品の開発や改良経費、商談会への参加を支援し販路拡大や新たな商品開発を進める。</p> <p>商品開発改良支援 4件 ・牡蠣殻そうじ機導入支援 ・低温貯蔵庫導入支援 ・贈答容器作成支援 ・しいたけシール作成支援</p> <p>イベント参加及び商談会等の販売促進活動 1回 ・越前・若狭紅白味噌2020への出店、PR</p>	<p>地元産品を活用した特産品の開発や改良経費、商談会への参加を支援し販路拡大や新たな商品開発を進める。</p> <p>商品開発改良支援 5件 ・島ジャコ天商品パッケージ作成支援 ・越前かに贈答用箱作成支援 ・お〜いの魚屋暖簾・のぼり作成支援 ・ふくいサーモンPRパネル作成支援 ・さぶりの里山のお米袋等作成支援 機械装置等取得 3件 ・うろこ取り機導入支援 ・穀類害虫駆除機導入支援 ・ジビエ用真空包装机・冷凍庫導入支援</p> <p>イベント参加及び商談会等の販売促進活動 1回 ・シーフードショー東京の視察</p>	<p>地元産品を活用した特産品の開発や改良経費、商談会への参加を支援し販路拡大や新たな商品開発を進める。</p> <p>商品開発改良支援 1件 ・梅販売促進ポロシャツ、ラベルシール、容器等導入支援 機械装置等取得 2件 ・じねんじょ専用おろし導入支援 ・梅用フードプロセッサ導入支援</p> <p>イベント参加及び商談会等の販売促進活動 2回 ・みなとオアシスSea級グルメ全国大会n8横浜港 ・シーフードショー大阪</p>
	令和5年度(予定)	令和6年度	
	<p>地元産品を活用した特産品の開発や改良経費、商談会への参加を支援し販路拡大や新たな商品開発を進める。</p> <p>商品開発改良等 2件 機械装置等取得 2件</p> <p>イベント参加及び商談会等の販売促進活動 3回</p>	/	



福井のネクストブレイク商品
令和4年度認定商品
茸カレー
—福井県商工会連合会認定推奨品—

評価(Check)

成果を測る指標(KPI・数値目標)	商品開発数		⇒	現 状		KPI達成率(%)
	基準値 (平成30年度)	累計3件		令和4年度末	累計8件	
	目標値 (令和6年度末)	累計9件				

① 数値目標達成状況	おおむね達成
達成状況の要因分析	<p>特産品開発・販売促進等支援事業補助金を活用した商品の改良や機械装置導入等により、特産品の魅力向上、生産の効率化を進め生産者等の意欲を高める必要がある。</p> <p>新型コロナウイルス感染症対策により町外での販売促進活動は自粛傾向にあるがコロナ収束後を見据え早めの広報活動が必要となる。</p>
目標を見直す場合の考え方	—

② 事業成果

令和4年度は、商品開発・販売2件の実績があった。
(①名田庄商会「茸カレー(商品名のカレーは漢字)」、②名田庄ジビエ会「ジビエ肉加工品」)
特産品開発・販売促進等支援事業補助金により商品開発改良支援1件と機械設備の導入支援2件の助成を行った。

③ これまでの取組で得られたノウハウや昨年度までの事業評価を反映した今後の方針

ノウハウの内容、内部評価・外部評価の反映、目標達成に向けた今後の方針など

コロナ収束後の特産品への需要を見極めるため、常に市場調査は必要であり、販路を拡大させていくためにも販売促進活動に取り組むことが重要である。
特産品のPR活動として、従来からのイベント等への参加に加え、流通関係者に直接アプローチが出来る商談会等へ積極的に参加する。

④ 内部評価結果(①～③を踏まえた評価)

R4年度は新たな商品開発が2件あり、KPIの達成に向けて順調。これまで開発された商品を含め、町の特産品の販路や消費を拡大するため、さまざまな機会を捉えて積極的にPRしていくことが重要




外部評価の結果

意見等なし

第2次おい町未来創生戦略 事業評価シート

整理番号	2-④	課名	商工観光課
------	-----	----	-------

戦略分類	2. 若者仕事		
取組の方向	ワンストップ起業支援とブランド力の向上		
戦略事業名	④起業促進支援事業		
予算事業名	起業促進支援事業		
令和4年度実績額	5,020,000円	令和5年度予算額(6月補正後)	50,090,000円

事業の概要(実績)	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	<p>新規創業を推奨することにより、商工業の活性化を図り、減少傾向を辿る町内事業者数の確保を図るとともに、I・J・Uターンの契機を創出する。</p> <p>町内において創業を希望する方に対し、創業時の負担を軽減するため、初期投資等に係る費用の2/3(上限5,000千円)を助成する。</p> <p>・新規創業 2件(美容業) 実績額 10,000千円</p>	<p>新規創業を推奨することにより、商工業の活性化を図り、減少傾向を辿る町内事業者数の確保を図るとともに、I・J・Uターンの契機を創出する。</p> <p>町内において創業を希望する方に対し、創業時の負担を軽減するため、初期投資等に係る費用の2/3(上限5,000千円)を助成する。</p> <p>・新規創業 0件 実績額 0円</p>	<p>新規創業を推奨することにより、商工業の活性化を図り、減少傾向を辿る町内事業者数の確保を図るとともに、I・J・Uターンの契機を創出する。</p> <p>町内において創業を希望する方に対し、創業時の負担を軽減するため、初期投資等に係る費用の2/3(上限5,000千円)を助成する。</p> <p>・新規創業 1件(飲食業) 実績額 5,000千円</p>
	令和5年度(予定)	令和6年度	
	<p>新規創業を推奨することにより、商工業の活性化を図り、減少傾向を辿る町内事業者数の確保を図るとともに、I・J・Uターンの契機を創出する。</p> <p>町内において創業を希望する方に対し、創業時の負担を軽減するため、初期投資等に係る費用の2/3(上限5,000千円)を助成する。</p> <p>令和5年度から、年度内に2回(上期・下期)申請期間を設け、起業しやすい環境にする。</p>	(空欄)	
<div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div> <p style="text-align: right; margin-right: 50px;">にぎり10貫 小鉢 汁物 デザート</p>			

評価(Check)						
成果を測る指標(KPI・数値目標)	起業件数(事業活用による累積)		⇒	現 状		KPI達成率(%)
	基準値 (平成30年度)	累計8件		令和4年度末	累計15件	50.0%
	目標値 (令和6年度末)	累計30件				

① 数値目標達成状況		現状では達成が難しい
達成状況の要因分析	<p>令和2年度から「おい町起業促進支援事業補助金」として、一次創業向け制度としてスタートし、令和4年度は2件の申請で、審査の結果1件であった。</p> <p>令和2年度以降、専門家による客観的な審査会により採択の可否を決定しており、令和2年度は申請2件に対し採択は2件、令和3年度は申請1件に対し採択は0件、令和4年度は申請2件に対し採択1件となった。</p>	
目標を見直す場合の考え方	-	

② 事業成果

令和4年度は、2件(飲食業・水産加工業)の申請があり、審査の結果1件の実績があった。
令和2年度から補助対象を一次創業に限定するとともに、申請期間を定め事業内容の審査を行うこととしたため、以前より申請及び採択件数が減少する傾向となったが、コロナ禍において一定の成果はあったと考える。

③ これまでの取組で得られたノウハウや昨年度までの事業評価を反映した今後の方針

ノウハウの内容、内部評価・外部評価の反映、目標達成に向けた今後の方針など

令和2年度から事業対象者を一次創業者に限定したためか、採択は以前より減少した。
一方で、申請期間を定め有識者等による事業計画の審査を行うことにより、起業後の経営見込に対するチェック機能を働かせることができた結果という見方もある。
申請者からの事業計画に対する審査について、より効果的な手法等に改善を図りつつ、一方で創業希望者にとって活用しやすい制度運営を行うため、令和5年度から年度内に2回(上期・下期)申請期間を設け、起業しやすい環境にする。

④ 内部評価結果(①～③を踏まえた評価)

・令和4年7月にオープンした「SEE SEA PARK」にあるチャレンジ区画の全区画に入居があり、5者が営業活動を行っていることは起業促進につながる取組として期待が持てる。今後も起業を希望する方がチャレンジしやすい環境を整えていくことが重要
・新規創業者に対する助成について、令和5年度から年度内に2回(上期・下期)申請期間を設けて制度を利用しやすくしたことについて、広く周知を図り実際の申請につなげていく必要がある。

外部評価の結果

(委員)起業促進支援事業補助金の申請期間を今年から年2回に増やした経緯を教えてください。
⇒昨年の有識者会議で起業支援について指摘があった他、起業希望者からも問い合わせがあったことから募集を増やした。その効果は出ており、令和4年度は年間2件の申し込みに対して採択されたのは1件だけだったが、今年は上期だけで4件の申し込みがあり、2件が採択された。下期についても既に複数件の問い合わせを受けている。

第2次おい町未来創生戦略 事業評価シート

整理番号	2-⑤	課名	しごと創生室
------	-----	----	--------

戦略分類	2. 若者仕事		
取組の方向	ワンストップ起業支援とブランド力の向上		
戦略事業名	⑤チャレンジショップ整備事業		
予算事業名	チャレンジショップ整備事業		
令和4年度実績額	103,924,226円	令和5年度予算額(6月補正後)	144,808,000円

事業の概要 (実績)	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	<ul style="list-style-type: none"> ・実施設計業務(R元年度から繰越) 21,236,300円 ・チャレンジショップ棟整備工事 (R2年度へ一部繰越) 50,000,000円 ・〃 施工監理委託料 9,109,000円 ・地中熱利用設備整備工事(その1) 114,851,000円 ・〃 施工監理委託料 3,520,000円 ・指定管理委託料 20,000,000円 	<ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジショップ棟整備工事 (R2年度から繰越) 811,850,000円 ・〃 施工監理委託料 9,376,000円 ・地中熱利用設備整備工事(その2) 28,152,000円(一部 R4年度へ繰越) ・複合商業施設周辺整備工事 85,140,000円(一部 R4年度へ繰越) ・施設備品購入費 27,319,930円(一部 R4年度へ繰越) ・指定管理委託料 19,998,000円 ・オープニングイベント開催委託料(R3年度分)2,600,000円 ・サイン製作設置委託料 4,722,300円 	<ul style="list-style-type: none"> ・地中熱利用設備整備工事(その2)(R3年度から繰越) 42,228,200円 ・〃 施工監理委託料(R3年度から繰越) 4,796,000円 ・複合商業施設周辺整備工事(R3年度から繰越) 126,749,000円 ・〃 施工監理委託料(R3年度から繰越) 1,760,000円 ・チャレンジショップ魅力向上システム構築業務 60,000,000円 ・太陽光発電設備整備に伴う実施設計業務 8,393,000円 ・指定管理委託料 22,000,000円 ・オープニングイベント開催委託料(R4年度分)6,090,000円
	令和5年度(予定)	令和6年度	
	<ul style="list-style-type: none"> ・SEE SEA PARK太陽光発電設備整備工事 101,310,000円 ・〃 施工監理委託料 8,000,000円 ・オープン1周年記念イベント開催委託料 9,000,000円 ・指定管理委託料 22,715,000円 ・備品購入 2,400,000円 		
事業の概要(実績)			



オープニングイベント状況



魅力向上システム稼働状況

評価(Check)						
成果を測る指標 (KPI・数値目標)	起業件数(事業活用による累積)		⇒	現 状		KPI達成率(%)
	基準値 (平成30年度)	累計8件		令和4年度末	累計15件	50%
	目標値 (令和6年度末)	累計30件				

① 数値目標達成状況		現状では達成が難しい
達成状況の要因分析	令和2～4年度の起業件数はコロナ禍等の影響により各1件に留まっており、目標の年平均3.7件には達していない状況であるが、本施設の稼働により、起業を望む者へチャレンジの場が提供できたことから、今以上の起業促進が図れる。チャレンジ区画及びシェアオフィス区画については全区画入居し営業活動を行っている。	
目標を見直す場合の考え方	—	

② 事業成果

チャレンジショップ棟、商工会館テナント棟及び芝生広場等周辺を一体を「SEE SEA PARK」という名称で令和4年7月16日にオープンした。チャレンジ区画、シェアオフィス区画及びテナント棟も含む全ての区画への入居が完了しており、営業活動を行っている。令和4年度に実施したSEE SEA PARK魅力向上システム構築業務において整備したライティングデザインも運用を開始しており、イベント時や夜の賑わい創出に寄与している。
指定管理者において、チャレンジャー、テナントに加え、うみんぴあ大飯内の各施設とも連携を図り各種イベントを行うなど、うみんぴあ大飯エリア全体の賑わい創出に尽力している。SEE SEA PARKへの入込数は7月16日のオープンから令和5年3月31日までで211,996人となっている。

③ これまでの取組で得られたノウハウや昨年度までの事業評価を反映した今後の方針

ノウハウの内容、内部評価・外部評価の反映、目標達成に向けた今後の方針など

当該事業は町の商工・観光振興施策の種となる新たな産業の育成に資するものであり、商工会や観光協会等関係機関と十分な連携を取りながら進める必要がある。
指定管理者が中心となりSEE SEA PARK内のテナントによるテナント会や、商工会、観光協会、(株)おおい、町商工観光課等で構成する連絡会を立ち上げており、イベントの効果的な活用や連携を行うことにより、うみんぴあを核とした町商工観光振興に繋げたい。

④ 内部評価結果(①～③を踏まえた評価)

- ・令和4年7月にオープンした「SEE SEA PARK」にあるチャレンジ区画の全区画に入居があり、5者が営業活動を行っていることは起業促進につながる取組として期待が持てる。今後も起業を希望する方がチャレンジしやすい環境を整えていくことが重要
- ・新規創業者に対する助成について、令和5年度から年度内に2回(上期・下期)申請期間を設けて制度を利用しやすくなったことについて、広く周知を図り実際の申請につなげていく必要がある。

外部評価の結果

SEE SEA PARKが去年7月16日にオープンしてから1年が経ち、オープンから今年の3月31日までに合計211,996人もの来場者があったことは驚き。引き続き、積極的なPRと定期的なイベントを開催していくのが望ましいと思う。

第2次おい町未来創生戦略 事業評価シート

整理番号	2-⑥	課名	商工観光課
------	-----	----	-------

戦略分類	2. 若者仕事
取組の方向	ワンストップ起業支援とブランド力の向上
戦略事業名	⑥道の駅うみんぴあ大飯賑わい創出・ブランド力推進事業
予算事業名	うみんぴあ大飯事業(イベント委託)

令和4年度実績額	3,989,810円	令和5年度予算額(6月補正後)	4,000,000円
----------	------------	-----------------	------------

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
事業の概要(実績)	道の駅うみんぴあ大飯において、賑わい創出イベントを開催し、町の特産品等を広くPRすることによって本町の認知度の向上に努めた。 ・道の駅うみんぴあ大飯年間来館者数 201,596人 ・賑わい創出イベント開催状況 海鮮焼き物市等2,714人 秋の大感謝祭1,497人 きのご祭り2,285人 いちご祭り1,521人	道の駅うみんぴあ大飯において、賑わい創出イベントを開催し、町の特産品等を広くPRすることによって本町の認知度の向上に努めた。 ・道の駅うみんぴあ大飯年間来館者数 224,880人 ・賑わい創出イベント開催状況 おいのおさかなまつり1,173人 海鮮焼き物市&野菜試食会4,284人 きのご祭り2,206人 カニ祭り1,527人 いちご祭り1,540人	道の駅うみんぴあ大飯において、賑わい創出イベントを開催し、町の特産品等を広くPRすることによって本町の認知度の向上に努めた。 ・道の駅うみんぴあ大飯年間来館者数 272,027人 ・賑わい創出イベント開催状況 おいのおさかなまつり1,500人 梅まつり1,752人 海鮮焼き物市&野菜試食会6,436人 新米まつり2,727人 きのご祭り1,905人 カニ祭り2,124人 歳末大感謝祭2,225人 新春イベント1,232人 春のうみんぴあ祭り1,624人
		令和5年度(予定)	令和6年度
	道の駅うみんぴあ大飯において、賑わい創出イベントを開催し、町の特産品等を広くPRすることによって本町の認知度の向上に努める。 ・賑わい創出イベント おい梅まつり 海鮮焼き物市等 秋の大感謝祭 きのご祭り カニ祭り など		



評価(Check)

成果を測る指標(KPI・数値目標)	売上額		⇒	現 状		KPI達成率(%)	
	基準値 (平成30年度)	年間 182,591千円		令和4年度末	年間191,236千円		95.6%
	目標値 (令和6年度末)	年間 200,000千円					

① 数値目標達成状況

達成状況の要因分析	新型コロナウイルス感染症の影響が少なくなり、コロナ前の状況に戻りつつある。イベント開催や情報発信等を継続して実施した結果、目標値に近い売上となった。今後は、イベント内容やPR方法をさらに工夫し、リピーターの確保と近隣地域からの集客に努めるとともに、積極的な情報発信やエリア内で連携し新たな観光入込客数の増加に努める。	おおむね達成
目標を見直す場合の考え方	—	

② 事業成果

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける前の令和元年度(2019年)と比較し、来館者数は272千人(34千人減)であったが、売上は191,236千円(2,465千円)で過去最高額となった(自販機除く)。
道の駅うみんぴあ大飯参画者協議会や関係団体と連携した販わい創出イベントを開催することにより、町の特産品や観光スポット、その他のイベント等を広くPRすることができた。

③ これまでの取組で得られたノウハウや昨年度までの事業評価を反映した今後の方針

ノウハウの内容、内部評価・外部評価の反映、目標達成に向けた今後の方針など

道の駅において、季節に応じたイベントを開催することにより、時期に応じた町の特産品やイベント等のPRを行うことができるため、うみんぴあ大飯エリアだけではなく、その他の町内の観光スポット等への観光客増加に資することができる。
季節に応じた農産物や魚介類等をはじめとする特産品をテーマとしたイベントを開催し、リピーターの確保や新たな顧客の確保に努めるとともに、町内への周遊を促すための情報発信に努める。
毎月のイベントで徹底したコロナ対策を行うことで、道の駅では安心して地元産品を味わえ、買い物ができるという意識づけを行う。
令和4年度は、スケボーパークやSEE SEA PARKのオープンがあり、令和5年度はこども家族館リニューアルオープンなど、施設の充実が図られており、今後は道の駅参画者協議会等の関係団体との連携を一層強化し、エリア内の販わいを創出する。

④ 内部評価結果(①～③を踏まえた評価)

R4年度は過去最高額の売上となり、イベントの開催や情報発信等を継続して実施した結果が出ている。売上を維持し増やしていくためには、イベントの内容や情報発信の方法を工夫するなどして、新たな顧客の獲得とともに既存顧客のリピート率を高めていくことが重要

外部評価の結果

道の駅でさまざまなイベントを開催するなど積極的に取り組んでいるなという印象がある一方、エリアの中での連携がまだまだ不十分と感じている。ある施設がイベントをするときは別の施設もそれをPRするなど、協力すべき部分は協力して、うみんぴあエリア全体で知名度やブランド力を上げていくことを目指すべきである。また、各施設に誘客、誘導するためのサインがもっと必要ではないかと思う。何の施設か分からないという声を多く聞くので、うみんぴあエリア全体での統一、共通したサインを取り入れることを考えてほしい。

第2次おい町未来創生戦略 事業評価シート

整理番号	2-⑦	課名	しごと創生室
------	-----	----	--------

戦略分類	2. 若者仕事		
取組の方向	本町の特性を活かした企業誘致		
戦略事業名	⑦産業団地造成事業		
予算事業名	企業振興対策事業		
令和4年度実績額	236,516,467円	令和5年度予算額(6月補正後)	1,285,128,000円

事業の概要 (実績)	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	<ul style="list-style-type: none"> ・産業団地造成工事(R2年度支払分) 21,650,000円 ・産業団地造成工事施工監理業務(R2年度支払分) 1,090,000円 ・企業立地助成金(3社) 7,932,688円 	<ul style="list-style-type: none"> ・産業団地造成工事(R3年度支払分) 265,810,000円 ・産業団地造成工事施工監理業務(R3年度支払分) 9,070,000円 ・電気設備移転補償金(4社) 14,922,440円 ・企業立地助成金(3社) 7,864,831円 	<ul style="list-style-type: none"> ・産業団地造成工事(R4年度支払分) 210,290,000円 ・産業団地造成工事施工監理業務(R4年度支払分) 7,330,000円 ・確定用地測量及び分筆登記業務 9,016,700円 ・企業立地助成金(3社) 6,729,261円
	令和5年度(予定)	令和6年度	
	<ul style="list-style-type: none"> ・産業団地用地清掃業務 7,300,000円 ・企業立地助成金(1社:山村JR貨物きらべジステーション(株)) 314,161,000円 ・植物工場立地促進事業補助金(2社:山村JR貨物きらべジステーション(株)、(株)タガヤス) 957,050,000円 ・オフィス補助金(1社:(株)YMIT) 3,232,000円 		

令和5年3月竣工
整備区画

- ①: 11,659㎡
- ②: 5,161㎡
- ③: 5,096㎡
- ④: 10,102㎡

評価(Check)

成果を測る指標 (KPI・数値目標)	利用企業数	⇒	現 状		KPI達成率 (%)	
	基準値 (平成30年度)		累計0件	令和4年度末	0	0
	目標値 (令和6年度末)		累計4件			

① 数値目標達成状況		現状では達成が難しい
達成状況の要因分析	うみんぴあ大飯等への企業誘致に加え、多様な企業の進出を促し、雇用の場の確保を図るため取り組む事業であり、令和4年度においては、整備工事がすべて完了した。開発行為竣工検査終了(令和5年4月5日)をもって分譲を開始した。	
目標を見直す場合の考え方	—	

② 事業成果

令和4年度の事業成果としては、整備工事について県工事発生土の受入の関係で工期が2か月程度遅れることとなったが、年度内に完成することが出来た。

③ これまでの取組で得られたノウハウや昨年度までの事業評価を反映した今後の方針

ノウハウの内容、内部評価・外部評価の反映、目標達成に向けた今後の方針など

工事残土活用の協議会等を活用し、佐分利川浚渫土砂を受け入れることが出来たため、工事費用の圧縮が出来た。完成した用地の分譲については、町の特色を生かしつつ、県や関係機関と連携を取りながら、U・Iターンに資するような企業の誘致に取り組みたい。

④ 内部評価結果(①～③を踏まえた評価)

R5年4月から分譲を開始した産業団地について、関係機関との連携や積極的なPR等を行い、U・Iターンなど地域振興に資する企業を誘致することが重要

外部評価の結果

(委員)4月に分譲開始した産業団地は、町はどのようにして誘致活動を行っているのか。

⇒チラシやHPによる募集、ビジネス誌への広告出稿の他、県と連携して職員が県外に出向くなどして積極的に実施している。

(委員)団地進出に関心のある企業はどれだけあるのか。

⇒数件の企業から進出検討の話があったが、U・Iターンの促進といった町が掲げる目的に合う企業はなかった。町にとって最適な企業を選択するために今後も積極的に誘致活動を進めていきたい。

(委員)大きなお金をかけているので、誘致をなるべく早く進めてほしい。

(委員)大きな事業でありお金もかかっているの、広報は非常に重要。

第2次おい町未来創生戦略 事業評価シート

整理番号	2-⑧	課 名	商工観光課
------	-----	-----	-------

戦略分類	2. 若者仕事		
取組の方向	ワンストップ起業支援とブランド力の向上		
戦略事業名	⑧名田庄トレイルコーディネート事業		
予算事業名	登山道維持管理事業		
令和4年度実績額	10,230,000円	令和5年度予算額(6月補正後)	10,670,000円

事業の概要 (実績)	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	令和5年度(予定)	令和6年度	
	<p>名田庄地域を周回する約100kmのロングトレイルルートを令和3年度から3年間で整備する。</p> <p>・名田庄トレイル整備コーディネート業務実績 調査: 22ルート(109. 22km) 整備計画: 6ルート(47. 3km)</p> <p>・旅をキーワードに、自分らしいアウトドアの楽しみを探る人に向けた専門誌「ランドネ」に特集記事掲載。</p>		
	<p>名田庄地域を周回する約100kmのロングトレイルルートを令和3年度から3年間で整備する。</p> <p>・名田庄トレイル整備コーディネート業務実績 調査、ルート設定・整備、トレイルランニングレース大会&トレイルツアー実施、運営組織づくり、マップ作成</p>		



山女メンバーはお揃いの服



野鹿バーガー(ジビエ)を楽しむ



広報おい12月号の紙面



頭巾山の山頂



ガイドから説明を受ける参加者

評 価 (Check)

成果を測る指標 (KPI・数値目標)	ビジターセンター売上額		⇒	現 状		KPI達成率 (%)
	基準値 (平成30年度)	80,849千円		令和4年度末	63,546千円	76.1%
	目標値 (令和6年度末)	83,449千円				

① 数値目標達成状況	おおむね達成
達成状況の要因分析	<p>新型コロナウイルス感染症の影響が少なくなり、コロナ前の状況に戻つつある中、令和4年度においては、数値目標であるビジターセンター(八ヶ峰家族旅行村・頭巾山青少年旅行村)売上額が、前年度実績の52,492千円から121.1%増加(八ヶ峰家族旅行村138.0%増、頭巾山青少年旅行村118.9%増)し63,546千円となったが、目標の達成には至らなかった。</p> <p>トレイルハイクは前年度1回の実施から5回増の6回実施し、徐々に参加者が増加し、複数回参加の方もあり、好評であった。</p>
目標を見直す場合の考え方	—

② 事業成果

事業スタートが令和3年度で、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける中、事業の成果は厳しい状況が続いているが、令和4年度は新型コロナウイルス感染症の影響が少なくなり、状況は好転しつつある。

令和4年度は、トレイルルート予定エリアの中でも入山の少ない部分の調査を主に、古道、地域の社寺、城跡、遺跡、産業遺構なども調査対象とした。このエリアの大きな特徴である旧作業道は本年調査箇所にも多く存在し、《要らないものから楽しむものへ》変換するトレイルづくりの可能性をさらに高める結果であり、その活用方法について更に検討を重ねると共に、地域の有志者によるトレイルランニング実行委員会が立ち上げられ、この旧作業道やトレイルを活用したトレイルランニング大会の提案がなされており、地域の方々がトレイルを観光振興のツールとして活用を検討するという非常に大きな進展を得た。

③ これまでの取組で得られたノウハウや昨年度までの事業評価を反映した今後の方針

ノウハウの内容、内部評価・外部評価の反映、目標達成に向けた今後の方針など

令和4年度はトレイルハイクを地道に実施したほか、新聞・ラジオ・テレビ・広報紙等の周知活動を精力的に行った結果、地元有志から名田庄トレイルを周知するため「トレイルランニングレース」の開催を求める声があり実行委員会が設立されるなどの動きがあった。
今後、トレイルランニングレースやトレイルハイクを継続し、地域の人材育成や組織の充実、運営の強化などにより、名田庄トレイルの周知を図る。

④ 内部評価結果(①～③を踏まえた評価)

新型コロナウイルス感染症の影響が少なくなってきたこともあり、ビジターセンターの売上額は増加している。令和5年度に開催するトレイルランニングレース大会を好機として、トレイルルートのブランドや認知度の向上を図り、交流人口や関係人口の拡大にも繋げていくことが重要

外部評価の結果

意見等なし